

情報連絡員報告総括表(令和6年8月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食 料 品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足や原材料価格・物流費の高騰、更には米不足が大きな問題となっており、先行きについては様々な変動要素がある。 ・大豆を始めとする原材料価格高騰による業界への影響は大きく、特に原料米穀不足に伴う価格高騰は当面深刻な影響を及ぼすと考えられる。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格の値上がりが止まらない。 ・販売価格への転嫁が思うように出来ていない。 ・生徒数の減少や行事の開催により、学校給食の減少が続いている。
	豆腐製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格等の値上がりが継続している。 ・豆腐類の市場流通価格は、他の食品に比べて価格転嫁が進んでいない状況である。 ・豆腐製造業者の多くは、自助努力の限界にあり、今後の事業継続に大きな危機感を抱いている。
織 維 工 業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・流通在庫過多により、受注が減少傾向にある。 ・自動車メーカーの認証不正問題によって、車関連は影響を受けている。
	絹人織織物業	→	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・化合繊維物並びに絹織物共に状況は前月と変わっていない。 ・原材料価格の高騰や物価の上昇が続き、収益状況が厳しい中、金融機関の借入金利の上昇も予想され、先行きが不安である。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	→	↘	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・受注は横ばいだが、経費の増加が止まらず、収益は益々悪化している。
木 材 ・ 木 製 品	一般製材業	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比-15.0%と先月に続き大幅な下落となり、全国新設住宅着工戸数の-0.2%と比べて大変低く非常に厳しい現状である。特に木材が使われる割合が大きい持家住宅については、32ヵ月連続で前年同月割れと減少し、不振が継続している。 ・新設住宅着工戸数の減少は、木材需要の減少に直結し、売上額、売上単価・数量の減少、稼働率の低下を招き、木材関連事業者の経営を圧迫している。 ・ロシア材取扱木材関連事業者は、ロシア国内の戦争の長期化によって、先が読めない状況が続いていることや日本国内の住宅需要の不振が続き回復が見込めないことで、厳しい状況にある。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。

印	刷印刷業	→	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・10月出荷分より足並み揃えて各種印刷用紙、インキ、版の値上げが各メーカーから発表され、値上げがいつまで続くのか全く不明である。 ・値上げ出来るメーカーと値上げを拒めるユーザーとの狭間に位置する印刷会社の立場は、益々弱いものとなっている。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・原料や燃料価格の高騰が続いている。 ・製造の集約化が進んでいる品目がある。 ・安定供給を目指すも人手が不足している企業がある。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比で83.8%となっている。地区別では、県内いずれの地区においても前年実績を下回る結果となっている。 ・4月からの累積出荷量は、県全体では前年比88.1%と前年を下回っているが、ほぼ前月並みの水準である。
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	骨材・石工品等製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度骨材標準価格について、据え置きすることとなった。 ・骨材の需要は、全体的に低調な状況で推移している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・生産量は生産品目により各社のバラツキが大きくなっている。全体的には前年同月比で10%程度の落ち込みとなっており、先行きに対する不透明感は依然として強い。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	↘	・地金価格の高止まりが長期化している。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産実態が安定している。 ・工業団地内の電柱に落雷があり、2社の共電気設備に被害があった。また、他6社の電気系統にも異常が生じた。
	めっき加工業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	→	・取引先の生産量の減少から、めっき依頼も減っており、売上は減少傾向にある。 ・売上の減少により、収益も若干悪化している。 ・各社取り扱う製品は様々であり、業界全体の景況については不変である。
一般機器	金属工作機械製造業	↘	→	→	↘	↘	→	↘	→	↘	・受注状況は、前年同月比89.46%で、安定してきているが、近年全体的に減少が続いている。急激な落ち込みはないが、徐々に減少しており、底が見えない状況である。
	金属加工機械製造業	↘	→	→	→	↘	→	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	→	→	↘	・業界の低迷は長期に渡っている。 ・生産システムにおいても革新的な進歩は見受けられず、補助金等を活用して新規機器の導入もされているが、これまでの延長線上での生産性向上となり、効果も限定的である。絶対的な受注量が伸びない中では更にその効果も薄れ、現況を打破する新たなシステムが望まれる。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	↗	↗	→	→	→	→	→	・原材料価格や輸送費などの値上がりが継続しているため、顧客との価格交渉を再度行う計画だが、度重なる値上げにより、交渉は困難であると予測される。 ・電子部品市況は、若干回復の兆しがある。 ・自動車関係は、引き続き電動車向けの新製品開発の引き合いが増加している。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・秋に向けて展示会の動きが活発になり、需要の増加に期待している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備 操業度	雇用 人員	業界の 景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸 売 業	セメント卸売業	↑	→	↑	→	↑	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・袋セメント出荷数量について、8月も引き続き前年同月を上回り、4年前から続いた数量の減少は一先ず脱した感がある。 ・能登半島地震による災害復興関連の出荷も増加に繋がった要因と想定されるが、今後の出荷量を定量的に判断するまでには至らず、スポット的增加が断続的に発生すると思われる。
	非鉄金属製品卸売業	↓	↑	↑	↓	↓	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト上昇が続き、価格転嫁に苦慮している。 ・受注は、取引先によってバラつきがあり、トータルではやや減少という印象である。
小 売 業	鮮魚小売業	↓	→	↓	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↑	↓	↑	→	↓	↓		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・豚肉の相場が高く、利益を圧迫している。 ・ある地区では、新しくスーパーがオープンしたことにより、小売競争が激化している。
	野菜・果実小売業	→	→	↑	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・富山卸売市場の売上高は、数量減(90%)の単価高(113%)で、前年同月比102%となっている。 ・青果組合全体の売上高は、前年同月比99%となっている。
	家庭用電気機械器具小売業	↓	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↓	→	↓	↓	↓	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・先月に引き続き、需要の回復感は弱い。また、物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少が続いている。 ・販売価格については、燃料油価格激変緩和事業の補助上限額や補助率の変更などにより、前年同月比で11円程度低い状況となっている。
	農機具小売業	→	→	↑	↓	↓	↓		↓	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度米の価格が上昇し、業界にとっては明るい兆しが見え始めている。
	スポーツ用品小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ショッピングセンター	↑	→	↑	→	→	→		→	↓	・特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	↘	→		→	→	・お盆期間中や土日の夏休み向けイベント開催時には商店街の人通りは多く、特に飲食店は賑わっていたが、各商店の買回り品の売上高や売上点数については、共に低調な結果に終わっている。
	商店街	↘	↗	→	→	↘	↘		→	↘	・8月は猛暑日が多く、平日の人出は極端に減少している。 ・物販の落ち込みは大きいですが、イベントが開催されたため、飲食の落ち込みは少なく済んでいる。
サービス業	クリーニング業	↗		→	→	→	→		→	↗	・企業関連のユニフォームやイベント関連の祭りの衣装などの需要はコロナ禍前の状態に戻っている一方で、カッターシャツやスラックス等の日常的に着用される品物のクリーニングの売上が回復していない。コートなど衣替え時にクリーニングされるものについては回復しているようである。
	飲食業	→		↗	→	→	→		→	→	・お盆期間中の売上は良かったが、お盆明けから来店客が減少したため、前年同月と変わらない売上となっている。
	建築設計業	↗		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・8月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、自動車メーカーの認証不正問題で一部車種の生産を停止したことや台風等の影響により、前年同月比でマイナスとなっている。 ・実質賃金が物価上昇に追い付いていないことから個人消費の弱さが目立っており、自動車購買意欲も薄れているため、新車販売について予断を許さない情勢が続くと予想される。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えており、こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少している。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→		↘	→	↘	↘		→	↘	・施主都合による物件の中止、規模の見直しが続いており、仕事量の増加は見込めない。 ・11月より、約束手形の支払期日までの日数が60日以内となるが、一部の大手ゼネコンを除き、この対応が殆どされていない。高い鋼材費の立替をしている鉄骨加工業者にとって大きな問題であり、ゼネコンに約束手形期日の短縮と現金の比率について折衝していかなければならない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・設備・水道管共に公共工事の発注が多く出ているが、配置技術者の確保がままならず、各組合員は、受注したいが出来ない状態である。 ・水道工事各資材の値上がりにより、各単組への共同購買の仕入単価も値上げせざるを得ず、組合員への販売価格にも影響が出ている。
	電気工事業	→		↗	→	↗	→		→	→	・引き続き住宅着工件数は減少しているが、公共工事や民間設備投資は概ね順調に推移している。 ・昨年より高騰している資材価格が工事価格に反映され、収益向上に繋がりがつつある。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比-11.5円/ℓと大幅に下がり嬉しいことである。 ・物量は、前年同月比96.7%と伸び悩んでいる。